

## 令和4年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- 「自立貢献」～夢に向かって挑戦し、社会に貢献できる自立した生徒の育成をめざす～
- 1 人格の陶冶を育む学校（すべての教育活動を通して、社会で自立した人間として力強く生きるための総合的な力（人間力）の育成をめざす）
  - 2 自立した工業人の養成を実践する学校（産業界の変化に対応できる創造力豊かな学技兼備の工業人の養成をめざす）
  - 3 健全な社会人の育成を実践する学校（豊かな人間性や基本的な生活習慣を確立した社会人基礎力の育成をめざす）
  - 4 教職員のベクトルが一致し、成果が結集する組織的な学校（課題を共有し、生徒の成長に組織的に寄与し達成感・充実感がある学校）

## 2 中期的目標

- 一「自立貢献」を確立し、生徒の『夢・挑戦』を実現する学校経営一
- 1 人間力の育成（基礎学力やコミュニケーション力、規範意識を備え、自立できる生徒の育成をめざす）
    - (1) 社会人基礎力の育成（基礎学力の向上と人間性、基本的な生活習慣の確立）
      - ア 基礎学力の向上を図り、社会人として必要な文書知識や数学的な思考方法などを育成する。（基礎学力テスト結果の向上）
      - イ これからの産業人に必要な知識、技術・技能を融合し、課題を解決していく力、コミュニケーション力、チーム力などを育成する。
      - ウ 全職員で、基本的な生活習慣の向上と定着を図る取組みを推進し、生徒自らが自己に気づき自ら改善する力を培う。（年間遅刻者の割合 令和4年度に一人当たり2.5回以下（R1 3.0回、R2 2.79回、R33.35回）～令和6年度まで一人当たり2.5回以下を維持する。）
    - エ 生徒（会）活動の一層の推進を図るとともに、部活動の活性化をめざす。（挨拶運動の発展、全学年の部活動入部率 令和4年度に45%以上（R1 37.4%、R2 45.2%、R340.5%）～令和6年度まで45%以上を維持する。）
  - (2) 進路実現に向けたキャリア教育の充実
    - ア 系統的なキャリア学習の一層の推進を図り、就職基礎能力を育成する。就職希望者の進路保障の実現。就職希望者全員の就職内定率100%をめざす。（R4年度から実施）
    - イ 企業や労働関係団体等と連携を促進し、インターンシップや企業関係者講演会等の機会を充実し、職業意識や勤労観を高める。
    - ウ 大学等への進学希望者の進路保障の実現（大学等進学希望者の進学率100%をめざす。）
  - (3) 人権教育及び支援教育の充実
    - ア 学校教育活動全体を通して、他者を尊重し自己を大切に人権意識の向上を図る。（いじめ等の未然防止による重大事象（レベルV）ゼロの継続）
    - イ 支援教育コーディネーター（教育相談）を中心として、支援の必要な生徒への組織的な取組みの充実を図る。
- 2 工業教育の充実（実践的技能養成重点校としての充実）
  - (1) 専門性向上に向けた取組みの充実
    - ア 企業等との連携を推進し、各専門系の課題研究等の一層の充実を図る。
    - イ 資格支援センターのサポート機能と連動し、各専門系、教科等の資格取得の取組みの一層の活性化を図る。（年間ジュニアマイスター取得該当者数 令和4年度50以上（R1 40人、R2 20人、R3 41人）～令和6年度まで50人以上を維持する）
    - ウ 各専門系の各種技能コンテスト等への組織的な取組みを推進し、近畿・全国大会への出場及び上位入賞をめざす。
    - エ 再編整備計画の環境・地元産業・資格取得やPBL等の取組みを進める。
  - (2) 工業教育の魅力発信
    - ア ものづくり教育を基盤に小中学校や支援学校の児童生徒に対して、専門教育への興味関心を高める活動の充実を図る。
    - イ 工科高校の魅力を発信するため、インターネット・メディア・イベントなどを活用した、より効果的な広報活動の一層の推進を図る。
- 3 地域との連携
  - (1) 堺・高石地域の地場産業等との連携を通して、生徒の自己実現をめざした活動の充実を図る。
  - (2) NPOや各種地域団体との連携を一層深め、生徒会・クラブ活動などを通じた地域貢献をめざす。
  - (3) 校内防災体制（校内備蓄の推進）の充実を図るとともに地域の防災計画への連動を推進する。
- 4 教員の資質向上
  - (1) 主体的・対話的で深い学びの授業の実施（アクティブ・ラーニングやその為の指導方法を充実させる）。全教員の80%以上がアクティブ・ラーニング型授業をする割合を実授業回数に対して令和4年度に30%以上、令和6年度まで50%以上を維持する。）
  - (2) 学校組織の活性化とともに、校内研修及びOJTを積極的に推進し教員の人材育成に努める。
  - (3) 教員相互の公開授業や研究授業の積極的な推進による授業力向上とICTを活用した教育を推進する。1人1台端末の活用。（ICT授業活用率 令和4年度に90%以上（R1 77.9%、R2 77.0%、R3 78.1%）～令和6年度までに90%以上を維持する。）
  - (4) 人権研修の充実を図り、人権尊重の教育を推進する。
  - (5) 教員1人あたりの残業時間月45時間以内におさめるよう全校一斉退庁日、部活動休養日の定時退庁を徹底し、教職員の負担軽減を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校運営協議会からの意見
<p>①保護者の回答率が令和3年度では76.1%（在籍数636人に対して484回答）。令和4年度では、紙での回答ではなく、フォーム作成ツールを使用したところ50.4%（在籍数575人に対して290回答）であり減少した。</p> <p>②「保護者の学校行事への参加」（保護者：49.4%（昨年32%））は、昨年度はコロナ禍の影響により低下していたが、徐々に通常どおりの活動ができるようになり今年度は改善した。「懇談のための来校」（保護者：97.3%（昨年95%））では高い数値が継続されてきめ細かい指導がされている。</p> <p>また、保護者の「学校に対する意識」（堺工科に入学させて良かった）（保護者：96%（昨年95%））、生徒：84.6%（昨年77%）や「学習」（工業に関する知識や技術が身についた）（保護者：91.8%（昨年90%））、生徒：94.8%（昨年93%）が昨年度より高い数値を継続している。</p>	<p>【第1回】●教職員がハードワークすぎるので、業務を精査し削減が必要。●遅刻の実態をより明確にできる指標が必要。正規分布でないものの平均をとると不明瞭になる。●資格取得や技能コンテストなど他校と比較してどのくらい優れているのか知りたい。●学校とPTAの関わりについて詳しく知りたい。●いじめ問題に対してどのように取り組んだのかに重きを置き、生徒たちには学校以外にも逃げ場があることを提示してあげて欲しい。</p> <p>【第2回】●来年度より実施のPBL授業において、1班の適正人数は4、5名がよいのではないかと。生徒たちに失敗して学ばせるという姿勢を教員が持ってほしい。●中学生の受験希望者数が少なくても一定のニーズは必ずあるので存続して欲しい。●データからみて残業時間（時間外在校等時間）は多くないのではないかと。●担任の業務量をサポートできるような仕組みづくりが必要ではないかと。学校教育自己診断の教員記述項目を参考に業務改善を検討してみてもどうか。●部活動の在り方について、外部指導員等をどんどん活</p>

## 府立堺工科高等学校

<p>③生徒活動部が行った体育祭・文化祭の各行事のアンケートでは 85%以上の肯定率があり、楽しく行えていると回答する生徒が増えている。その一方で「部活動・生徒会活動等に取り組んでいる」(生徒:54%(昨年 58%))、「教育相談体制」(生徒:66.6%(昨年 67%))が低い結果になっており来年度へ向け改善が必要である。</p> <p>④教職員では学校組織に関する診断(教員:69.8%(昨年 51%))の多くの項目で数値が上昇している。</p> <p>昨年度より ICT 機器の導入やグループワークなどを取り入れて「わかる授業」をするために工夫をする」(教員:96%(昨年 88%))意識が向上したため、教員自身も「生徒の基礎学力の向上」(教員:49.3%(昨年 36%))を感じている。</p> <p>今後は自由記述にあった内容を検討し、さらに業務改善に努める。</p> <p>⑤来年度の重点課題は「生徒の基本的生活習慣の確立」「地域連携の再構築」「学校行事の魅力化」である。</p>	<p>用してはどうか。また、勝利至上主義の「勝つ」にこだわるのではなく、生涯スポーツとして「楽しむ」という気持ちが強い生徒も多くなっている。教員の意識改革が必要ではないか。●メディアに取り上げられたことはもっと大きくアピールすべき。●小中学校では、ものづくりに触れる機会が少ないので出前授業等でもものづくりの魅力発信をして欲しい。</p> <p>【第3回】●研修の参加率が低い場合は時期の変更や全教員の参加が難しい場合もあるので、研修の様子を録画して、参加できなかった人に後から見てもらえる仕組みを作ってはどうか。●働き方改革において、全校一斉退庁日を水曜に限定せずに柔軟に対応してほしい。一斉退庁を促すのはいいが、業務量の改革とセットで考えるべき。●一律に休みを設定してしまうと、やる気のある先生や生徒の気持ちを削ぐようなことにならないか。一斉に休める環境より、先生方がいつでも休める職場環境が大事なのではないか。●イオンで実施したものづくりワークショップは、教える生徒たちと小学生がイキイキしていてとてもよかった。展示物や宣伝方法、ワーク内容(プログラミングの導入等)、をさらに良いものにして来年も続けてほしい。●広報活動は、全部に力を入れすぎても回らなくなる。場所や時期なども考え、広報が必要な対象をしぼって行ったほうが良い。●力を入れている「資格支援」について、もっとホームページでPRする。保護者に対して申込み時期などの案内があるとよい。</p>
--	--

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
人間力の育成 (1) 社会人基礎力の育成	(1) ア.基礎学力の向上  イ.主体性の育成  ウ.生徒指導の充実(マナー向上含む)  エ.生徒(会)活動の活性化	(1) ア・第1学年については、数学は習熟度別指導、英語は少人数指導を継続実施する。 ・朝学の計画的な実施によって、学習意欲の向上と学習習慣の確立を図る。 ・わかる授業をキーワードとしたより丁寧な授業改善を図る。  イ・新学習指導要領のめざす観点別学習状況の評価などについての校内研修を実施する。  ウ・学校として統一した生徒指導と生活指導部・学年団と連動した指導の徹底による基本的生活習慣の改善を図る。(遅刻指導、特別指導等) ・遅刻が改善できない場合は、段階的な指導を行い、最終は保護者同伴による校長説諭。 ・身だしなみの指導を徹底する。 ・校内飲食指導を定着させる。 ・注意喚起のプリント等で抑止を目的とした指導を増やし、場合によっては放送や集会等で指導する。  エ・自主的な生徒(会)活動による挨拶運動、行事、ボランティア等の生徒(会)活動の活性化を図る。 ・1年学年団と連携した新入生の入部促進を図る。 ・本校の部活動活動方針に基づく部活動運営を行う。 ・PTAと連携した頑張る部活動の支援策の推進 ・挨拶運動の推進	(1) ア・学校教育自己診断アンケート結果で、基礎学力向上に関する項目の肯定率保護者80%(②)、生徒90%(13)、教員:40%(18)以上をめざす。[保護者77%、生徒84%、教員:36%] ・基礎力診断テストの学年平均得点190点以上を継続する。(第2、第3学年)[1年187.0点、2年190.2点]  イ・新学習指導要領等に係る研修(観点別学習状況の評価研修等)を1回以上行う。  ウ・年間遅刻件数を一人あたり2.5以下にする。8時30分基準[一人あたり3.35回] ・転学者・中退学者・留年者数を40人以下(卒業・進級判定会議を基準)をめざす。[中退8人、留年24人] ・特別指導件数20件以下をめざす。[12件]  エ・学校教育自己診断アンケート結果で、学校生活の生徒の満足度に関する項目の肯定率90%以上をめざす。[73%] ・体育祭及び文化祭のアンケート結果において、満足度に関する項目の肯定率80%以上をめざす。[R2中止 R3体育祭83% 文化祭89%] ・第1学年の部活動加入率45%以上(9月調査)をめざす。[第1学年40.5%] ・部活動の近畿大会、全国大会への出場及び上位入賞を継続させる。	(1) 文章中の(1)(2)等のカッコ内の数字は学校教育自己診断の項目番号、設問番号を示す。  (1) 保護者82.4%(追加項目含76%)【○】(2)、生徒89.1%【○】(13) 教員49.3%【○】(18)  第2学年196.3点【○】 第3学年195.8点【○】  10月に観点別学習状況の評価研修会を実施【○】  1820回、3.15回/人(1年652回、2年586回、3年582回)【△】 転学8名、退学19名、留年1名【○】  訓告2件4名、停学12件18名(1年8件13名、2年2件3名、3年4件6名)【○】  生徒76.5%【△】(①)  体育祭86.2% 文化祭85.7%【○】  45.9%【○】  なし【△】
(2) キャリア教育の充実	(2) ア.就職基礎能力の育成	(2) ア・各学年におけるキャリア学習を再整理し学習内容の一層の充実を図る。 ・学校目標に連動したキャリアマトリックスを再考する。また、キャリアパスポートを活用させる。 ・就職基礎能力(知識、文書力、コミュニケーション力等)の育成を図る。 ・就職試験対策の強化を図る。(面接指導の	(2) ア・就職希望者の全員合格をめざす。(就職内定率100%) ・進路指導に関する学校教育自己診断の肯定率(保護者・生徒・教員の平均)85%以上を継続する。[85.3%]	129名/130名(最終)99.2%【△】  平均90.5%【○】(保護者92.5%(④)、生徒88.4%(④)、教員90.7%(④))

## 府立堺工科高等学校

<p>(3) 人権教育、支援教育の充実</p>	<p>イ. 進学希望者の進路保障 (3) ア. 人権意識の向上  イ. 支援教育の充実</p>	<p>充実) イ・進学試験対策の強化を図る。(志望校見学・試験教科において補習の充実) (3) ア・HR活動、学年・全体集会などを通じて、身近な人権課題を考える機会の充実を図る。いじめ等の未然防止に努め、組織的な早期対応を図る。 ・障がいのある生徒との共同学習の充実を図る。 イ・支援教育コーディネータを中心として校内支援教育体制を継続し、「個別の教育支援計画」を活用した支援の充実を図る。 ・中学訪問を実施し「個別の教育支援計画」の引継ぎと新たに支援を要する生徒の計画の新規作成を推進する。  ・特別支援教育に係る教員研修の充実を図る。</p>	<p>イ・大学等進学希望者の全員合格をめざす。(進学率 100%) (3) ア・いじめ等の人権に関わる問題行動事象の未然防止に努め、早期対応による重大事象(レベルV)ゼロを継続する。[0件]  イ・教育相談体制に関する学校教育自己診断結果で、生徒の肯定率70%以上を継続する。[71%]  ・特別支援教育に係る教員研修の参加者アンケート(研修成果)の肯定率80%以上をめざす。[70%]</p>	<p>35名/35名中100%【○】  重大事象0、いじめ事象1【○】  生徒66.6% (⑥)【△】  58%【△】</p>
<p>工業教育の充実 (1) 専門性の向上</p>	<p>(1) ア. 企業等連携による専門系授業の充実  イ. 各種資格取得の推進  ウ. 各種技能コンテストへの挑戦  エ. 再編整備の導入</p>	<p>(1) ア・府教育庁の「企業等連携による実践的能力育成事業」を活用し、各専門系での授業の充実を図る。 イ・資格支援センターを中心に、各系、学年と連携した取組みを継続して推進する。  ウ・高校生ものづくりコンテスト等への積極的な取組みを推進する。 機械系: 溶接技能コンクール、全国製図コンクール、ロボット相撲大会 電気系: 高校生ものづくりコンテスト電気工事、電子回路組立部門への取組み強化、マイコンカーラリーへの参加 環境化学システム系: 高校生ものづくりコンテスト化学分析部門への参加 エ・3系で環境をテーマに持続可能な開発目標に取り組む事でマネジメント力を強化し、本校の特色を出す。 ・各系で大阪の地元産業と連携し、実践的スキルを深める。 ・各系で推進する資格(ジュニアマイスターC区分以上)に取り組む。 ・令和4年度からPBL学習を導入。 ・令和5年度より3系が連携したテーマを設定、系の枠を超えた課題研究を実施する。 ・3系で環境をテーマに取組み内容を計画し立案する。 ・各系において大阪の地元産業との連携先を探し、計画をたてる。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断アンケート結果で、専門性に関する項目(保護者・生徒・教員の平均)の肯定率80%以上を継続する。[82.7%] イ・資格取得者のべ人数850人以上をめざす。[R3 851人, R2 674人] ・卒業時、資格未取得者ゼロをめざす。[0人] ・ジュニアマイスター(G, S, B)の取得該当者数50人以上をめざす。[41人] ・【機械系】技能士有資格者数を20名以上をめざす。[19人]  ・【環境化学システム系】技能検定化学分析3級技能士資格を全員受験し合格率(実数)50%以上をめざす。[35%] ・【電気系】第2種電気工事士試験を全員受験し合格率(実数)85%以上をめざす。[82.5%] ウ・全国製図コンクールの最優秀特別賞受賞をめざす ・溶接技能コンクールの3位以上の入賞をめざす。[4位] ・ものづくりコンテスト大阪大会電気工事部門、[3・6・7位]電子回路部門の優勝[2位]と全国大会出場をめざす。 ・化学分析部門の近畿大会3位以上の入賞をめざす。[4・5位] ・その他コンクール等に出場し3位以上の入賞をめざす。 エ・課題研究発表会において、外部評価を実施し肯定評価率80%以上をめざす。[コロナのため未実施—%]</p>	<p>平均88.4%【○】(保護者91.8%(10)、生徒94.8%(9)、教員78.6%(11)) 資格取得: 延べ799名/受験: 延べ1172名【△】 卒業予定者1名未取得【△】 取得該当者数71名【○】 旋盤4名、機械検査4名、シーケンス11名【△】(昨年: 旋盤4名、機械検査8名、シーケンス13名) 受験者数58名、合格者数35名、合格率60.3%【○】 受験者数66名、合格者数56名、合格率84.2%【○】 最優秀特別賞受賞(6年連続)【○】 出場せず【△】 電気工事部門 優勝、5位、(近畿大会 準優勝) 電子回路部門 準優勝、3位【○】 化学分析部門 近畿大会入賞ならず【△】 マイコンカーラリー近畿大会ベスト16【△】 外部評価による肯定評価率100%【○】</p>

## 府立堺工科高等学校

<p>(2) 工業教育の魅力発信</p>	<p>(2) ア. 専門教育への興味関心を高める取組みの推進</p> <p>イ. 広報活動の推進</p>	<p>・各系で推進する資格内容について検討する。 ・CEについて、実施した内容を鑑みて指導略案を改善する。 ・総合的な探究の時間について、取組内容を検討する。</p> <p>(2) ア・中学校生徒へ体験入学を実施し、ものづくりの楽しさを伝え、専門教育への関心を高める。 ・次世代の教員育成のために専門系教員をめざす学生への支援。 ・地域の中学校等への出前授業等を実施し、ものづくり教育の魅力を発信する。</p> <p>イ・学校 Web ページの各コンテンツ内容の一層の充実を図るとともに、保護者一斉メールとの連動や SNS 等の活用で情報提供の充実を図る。 ・体育祭、文化祭などの写真を保護者が撮り、ブログに掲載する。 ・PTA 学級委員会へ担任が参加する。</p>	<p>(2) ア・体験入学の参加者アンケートについて肯定率 90%以上を継続する。[97%] ・専門系教員をめざす学生へ教育実習やインターンシップなどを積極的に受け入れる。 ・出前授業参加者アンケートの肯定率 80%以上をめざす。[コロナのため未実施一%] イ・Web ページの更新回数を 120 回以上をめざす。[更新回数 218 回] ・学校教育自己診断における保護者と教員の情報提供に関する肯定率 80%以上をめざす。[保護者 88%、教員 64%] ・Web ページの訪問数 15 万以上を継続する。(令和 4 年度から)</p>	<p>97%【○】</p> <p>大学等からの依頼が無かったため未実施【-】</p> <p>大仙小学校 2/7 実施 100%【◎】</p> <p>359 回【◎】</p> <p>平均 86.5%【○】(保護者 92.3% (⑦)、教員 80.7% (⑧))</p> <p>163,470 回【○】</p>
<p>地域との連携 (1) 地場産業等との連携 (2) 地域団体等との連携による地域貢献 (3) 校内防災体制</p>	<p>(1) ア. 堺・高石地域の地場産業との企業連携</p> <p>(2) ア. 生徒会・クラブ活動等を通じた地域貢献の推進</p> <p>(3) ア. 地域防災との連携</p>	<p>(1) ア・伝統工芸士(堺打刃物)や堺溶接業協会などとの企業連携により、課題研究授業等の一層の深化(専門性の向上)を図る。</p> <p>(2) ア・専門性を基盤にしたクラブ活動等により、堺市と連携し、古墳群などの文化遺産の継承発展や自然環境の保全活動等の地域貢献活動を推進する。 ・堺市及び大仙地域の自治会と連携した地域事業への積極的参加。</p> <p>(3) ア・大仙地区の地域防災活動への参画</p>	<p>(1) ア・該当授業のアンケート結果の肯定率を 80%をめざす。[97%]</p> <p>(2) ア・活動参加生徒の自己評価(活動充実度)における肯定率 95%以上を継続する。[100%]</p> <p>(3) ア・災害時における本校の対応について地域と協力し、対策を検討し、防災対策体制を整える。</p>	<p>96%【○】</p> <p>100%【○】</p> <p>10月13日 防災訓練(地震・津波想定)大仙公園へ避難。警察・小中学校と連携する計画であったが、コロナ禍で小中学校は参加を見合わせたため警察と本校で実施。【○】</p>
<p>教員の資質向上 (1) アクティブラーニング (2) 学校組織の活性化と人材育成 (3) 授業力向上</p>	<p>(1) ア. 主体的・対話的で深い学び</p> <p>(2) ア. 情報共有による組織連携の強化</p> <p>イ. 初任者等の校内研修の充実</p> <p>(3) ア. 授業力向上と ICT 教育の推進</p>	<p>(1) ア・生徒が主体的・対話的に授業に取り組めるようにし、授業に対する興味・関心を高める授業を実施する。</p> <p>(2) ア・情報の縦の流れ(職員会議・運営会議)と横の流れ(科系・分掌・学年)の組織的な統一を図る。 イ・教科指導員と指導教員(首席)の役割分担による初任者校内研修の充実を図る。 ・10年経験者研修受講者の校内研修の充実 ・初任者(メンティー)と10年経験者(メンター)を組み合わせた 0JT による資質向上を図る。 ・工業科教員の技術力向上のため、教員が参加できる技術研修を実施する。</p> <p>(3) ア・授業見学期間を設定し、相互の授業研究により授業力の向上を図る。 ・グループウェアを積極的に活用し有事における活用が円滑に行えるようにする。</p>	<p>(1) ア・全教員の 80%以上がアクティブ・ラーニングの授業の割合を実授業回数に対して令和 4 年度に 30%以上になるようめざす。[52.4%の教員が 35%以上で実施]</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断において教職員の会議等の意識に関する項目の肯定率 40%以上をめざす。[29%] イ・初任者に対し指導教員(首席)が校務について 5 回以上の研修を計画する。[5 回]また、校長は研修を 1 回以上実施する。[1 回] ・10年経験者研修(D)受講者に対して校長は研修を 1 回以上実施する。[1 回] ・校内技術研修を各系で 1 回以上実施する。[C3 回、M4 回、E1 回] ・校内技術研修に 1 回以上参加した工業の教員の割合について 60%以上をめざす。[73.9%]</p> <p>(3) ア・学校教育自己診断アンケート結果で、授業理解に関する項目(保護者・生徒・教員の平均)の肯定率 80%以上をめざす。[81.7%]</p>	<p>39.6%の教員が 30%以上で実施【△】</p> <p>教員 48%【○】(15)</p> <p>授業計画・生徒指導・進路指導等を含め 6 回の研修を実施。校長研修は 12 月に実施【○】</p> <p>12 月に実施【○】</p> <p>各種材料試験機(4月)マイクロカッター(5月)機械製図(12月)【○】 電気機器実習(12月)【○】 定量分析キレート適性(11月)オートアナライザー(1月)【○】 【機械系】11人/17人中 64.7%【○】 【電気系】9人/13人中 69.2%【○】 【環境化学系】10人/14人中 71.4%【○】</p> <p>84.9%【○】(保護者 73.8% (2)、生徒 84.8% (19)、教員 96% (17))</p>

## 府立堺工科高等学校

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年 HR 教室に設置したプロジェクターなどの ICT を活用したわかる授業を推進する。</li> <li>・1人1台端末を活用した授業を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回教員間の授業見学を実施する。</li> <li>・グループウェアを教員は1回以上(30%以上)HRは各学期で1回以上(年3回以上)の活用をめざす。</li> <li>・公開授業への外部参加者(保護者、中学校関係者)の授業評価アンケートの肯定率90%以上をめざす。</li> <li>・初任者研修受講者は年間3回/人以上研究授業を行う。[3回]</li> <li>・インターメディアイトセミナー受講者は年1回/人以上研究授業を行う。[1回]</li> <li>・10年経験者研修受講者は年1回/人以上研究授業を行う。[1回]</li> <li>・授業におけるICT活用率90%以上を維持する。[78.1%]</li> </ul>	<p>参加率：6月27.9%、11月26.5%【△】</p> <p>グループウェアを1回以上使用した教員は51.5%【○】</p> <p>HRでは各学期で1回以上使用【○】</p> <p>中学校教員向け100%、保護者97%【○】</p> <p>9・11・2月の3回実施【○】</p> <p>11月までに実施済【○】</p> <p>11月までに実施済【○】</p> <p>80.1%【△】</p>
(4) 人権教育	(4) ア.人権研修の充実	(4) ア・学校の実態に応じた人権課題等について精査し、人権意識を高める研修を実施する。	(4) ア・学校教育自己診断の人権教育に関する(保護者・生徒・教員の平均)肯定率80%以上を継続する。[81.3%]	平均86.8%【○】(保護者91.4%(6)、生徒87.8%(6)、教員81.3%(5))
(5) 働き方改革	(5) ア.働き方改革	(5) ア・全校一斉退庁日、部活動休養日の定時退庁を推進し、教職員の業務負担軽減を図る。 ・夏期・冬期ともに学校閉庁日を設定し、教職員の年休の取得を促進する。	(5) ア・全校一斉退庁日(水曜日、毎月20日)の年間平均退庁率90%以上をめざす。[90.4%]	7月100%、10月53.4%【△】 舩松人権歴史館・フィールドワーク(7月)在日韓国人人権問題(10月)【○】
				91.01%【◎】